

包容する建築－相模原アートセンターの提案 －

村田, 奈津子 / MURATA, Natsuko

(発行年 / Year)

2009-03-24

(学位授与年月日 / Date of Granted)

2009-03-24

(学位名 / Degree Name)

修士(工学)

(学位授与機関 / Degree Grantor)

法政大学 (Hosei University)

P377.5
M35-2
2008-42

2008年度 修士設計

包容する建築

— 相模原アートセンターの提案 —

主査 渡邊真理教授
副査 佐々木睦朗教授
副査 永瀬克巳教授

もくじ

序章 — 1 研究背景

第1章 研究概要

— 1 研究目的

— 2 研究方法

第2章 相模原市橋本

— 1 相模原について

— 1 相模原の位置

— 2 増加を続ける人口

— 3 相模原市21世紀総合計画

— 4 相模原の文化

— 5 相模原の文化施設

— 2 橋本周辺について

— 1 橋本について

— 2 橋本の高層化

— 3 橋本七夕まつり

第3章 包容する建築

— 1 包容する空間

— 2 アートセンター

第4章 設計計画

— 1 設計コンセプト

— 2 計画

参考文献

謝辞

〈研究背景〉

私が生まれ育った相模原市は現在政令指定都市をめざすほど大きな都市になっている。

私が子供のときは、橋本駅はペデストリアンデッキもなく、駅から少し歩いたところにあるユニーやイトーヨーカ堂へ友達と自転車で遊びに行ったものだ。今ではペデストリアンデッキで繋がれた商業施設が建ち、ユニーは映画館になり、イトーヨーカ堂は近くの大きい別の土地へ移り大型のショッピングセンターが計画されている。

今までなかったような高さのマンションが建ち始め、都会しかないと思っていたビル風を感じ始めた。このまま高層ビルが建ち並んでいけば、窮屈な空と、同じようなのっぼのビルを見上げることになる。高層ビルが建ち人口が増え、ビルとビルの間をそそくさと歩く人々が想像出来る。それは七夕まつりで人々が道路に溢れかえる風景とは全く違う。

〈Background〉

Sagamihara-shi, the place in where I have been grown up, is becoming a big city as if is aiming to be an ordinance-designated city.

When I was a child, there was no pedestrian-deck at Hashimoto station, and I used to go to Unii and ItoYokado (department store) near the station to play with friends. Now, many commercial buildings connected with deck are built, Unii has become a movie theater and ItoYokado has been moved to different place close by. A new project is now planned on where ItoYokado used to be

Apartments built now have height that has never been seen before, and a building blow that thought to be experienced only in big city can be felt these days. If these kinds of tall buildings keep on standing around this area, there will be only tiny sky and same kind of building heads can be seen when look up. It's easy to imagine the increase of population, and people walking hastily between buildings and buildings. That view of many people gathering and crowded is totally different from the one can be seen on the Star Festival.



第 1 章

設計概要

__ 1 研究目的

神奈川県相模原市は政令指定都市を目指している。

4つの町と合併した新相模原市は都市開発計画を進めている。市民にとってはなんのメリットがあるのでしょうか。

橋本駅周辺は30階を超えるマンションがいくつも建ち並び、さらに計画されている。駅の北側は商業地域が広がり、南側は駅前に高校があるため駅から少し離れた土地にマンションや商業施設をつくる計画が成されている。このままでは南側の駅前だけ取り残され、単に高いビルが駅前に集合する町になってしまうのではないだろうか。

橋本駅周辺には大学が多く学生で賑わっている。駅前のファッションビルの中のカフェに入れば、美大生がスケッチをしたり課題をこなしている。それなのに橋本には美術館やギャラリーが全くない。隣駅の相模原に唯一市民ギャラリーがあるが、もっと身近にあれば学生も自分を表現する機会が増えるはずである。そして、橋本図書館は音楽関係の本は充実しているが美術関係の資料が少ない。

- 人口増加による地域の人々の活動の場
- 学生や地域の人々の表現の場所であるギャラリー
- 合併した町についての情報

これらを満たす"アートセンター"を提案する。

__ 1 Purpose

Sagamihara-city in Kanagawa prefecture is aiming to be an ordinance-designated city one day.

New Sagamihara-city that is made by merger of 4 different previous cities is on a progress of urban development planning.

What is the advantage for citizens in doing so?

Around the Hashimoto station area, there are many buildings that are more than 30 floors high, and there will be more to be planed. Commercial area is planed on the north side of the station, and apartments and more commercial facilities are planed on the south side, but a little bit far form the station as there is high school close by. If nothing will be done, only monotonous tall buildings will be gathered around the station leaving the entrance of the south side.

It is thriving around the Hashimoto station by university students. Once you go in a shopping mall in front of the station, you can see art students drawing and doing their assignment at café. Although, there is no museum nor gallery to be found in this area. There is one public gallery in neighboring station, but it will be more worth full for art students to have opportunity on exhibiting their masterpiece if they could have them closer. Moreover, city library is full of books in music field but not in art field.

- Activity space for citizens due to increase of population
- Gallery which is the place for students and citizens to represent their activities
- Information about cities that has emerged

Proposal is to design "Art center" which satisfy above three.

_2 研究方法

橋本七夕まつりは3日間続き毎年沢山の人で橋本が南北ともに賑わう。主に駅の北側で行われる。南側にも歩行者天国は続くが、北側には神社や駅があり終着点があるが、南側はコインパーキングにテントをはるだけである。

南側の終着点にあたる敷地に提案を考えたい。

コミュニティ施設と言えば、広々とした印象が強い。しかし私はこの提案に人々を包み込んでくれる小さな空間を入れていく。

小さい空間をつくるために、四角を噛み合わせていく。噛み合った四角は角度がふられ様々な大きさの部屋をつくる。そして、噛み合った四角は上下階で違う噛み合い方をしている。そうすることで、外部から見るとどの階も奥行きが異り、普段見るとどの階も同じファサードの高層のマンションとは違いそこから見える人々の活動が迫り出してくる。

小さく包まれた空間があることで、広々とした空間を常に体験するのではなく、家のような人目を避け落ち着ける場所が人を惹き付けてくれるだろう。

この場が特別な場所ではなく、日常の一部としてあってほしい。

_2 Method

Hashimoto Star Festival takes place for 3 days and both north and south side become alive with many people every year. Although north side is a main part of this festival, pedestrian precinct also continues to south side. There is shrine on north side as a goal, yet nothing on south side but tent set on parking area.

Site takes place at the end of pedestrian precinct on southside.

There is a strong impression of wide space on community facilities. However, this proposal suggest to put many small spaces into which people tuck.

Throwing in many squares makes many small spaces. Those squares make rooms in various sizes by changing their angles. They have a different way of throwing in depends on their level. As doing so, perspective view of each floor from outside differs. This shows activities of people inside more dimensionally unlike tall apartment building which has all same facade that blocks life inside.

For not making people experience a wide space all the time, but for making people feel comfortable as if they are at house, this place will enchant many people to visit.

I want this place to be not special, but just a piece of people's life.

第 2 章

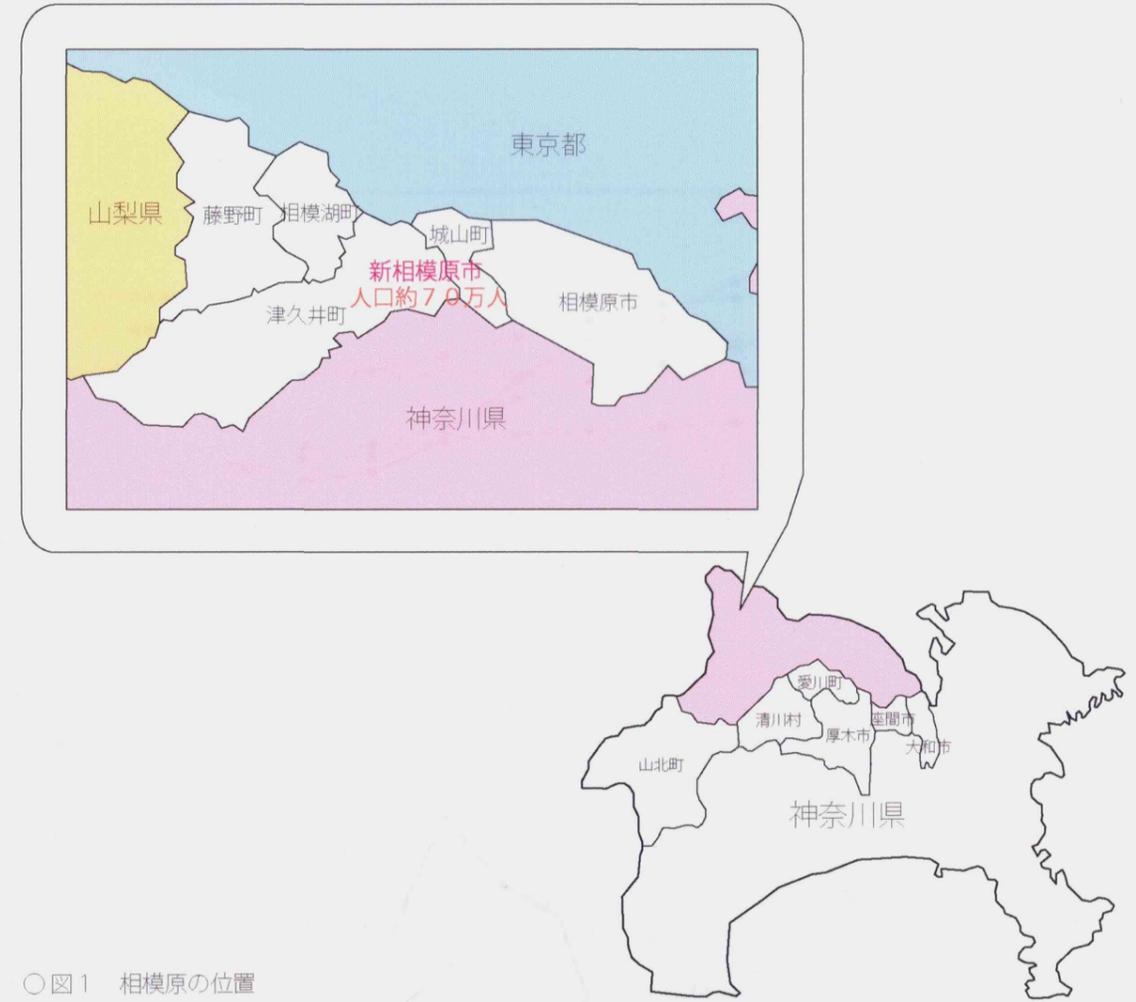
相模原市橋本



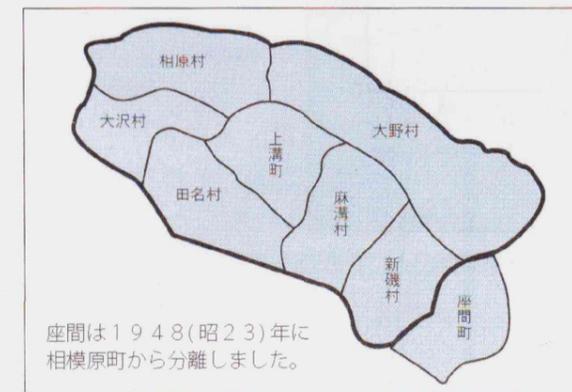
— 1 — 1 相模原の位置

相模原市は関東平野の南西部にあたり、神奈川県の中では、その北部に位置している。相模原市は平成18年3月に津久井町・相模湖町、平成19年3月に城山町・藤野町と合併し、県下にある19市のなかでは横浜に次いで2番目の広さを持つ(面積328.84km²)市になった。周囲は北東側を東京都、南側を大和市、座間市、厚木市、愛川町、清川村、西側を山北町、山梨県に囲まれている。

相模原市が誕生したのは、1954(昭和29)年のことである。江戸時代までの村が明治の町村制の施行によって7つにまとめられた。その後、座間町を加えた2町6か村が、1941(昭和16)年に合併して、相模原町は、面積が108.7km²もあり、当時としては全国一の広さを持っていた。第二次大戦後の町村合併ブームのなか、相模原は、県下で第10番目の市になった。また、相模原は東京都心から概ね30~60kmのところであり、いわゆる首都圏内に位置している。東京の近郊都市として急速に都市化が進み発展してきた。首都圏の拡大とともに、東京や横浜のベッドタウンとして、また内陸工業地域として、相模原は、その重要性を高めてきたといえる。平成15年4月には、政令市に次ぐ権限のある中核市に移行し、また、津久井市域との合併を経て、今後は、さらに都市機能を充実させ、自然環境と共生した都市へと発展しようとしている。



○図1 相模原の位置



○図2 合併前の町や村

— 1 — 2 増加を続ける人口

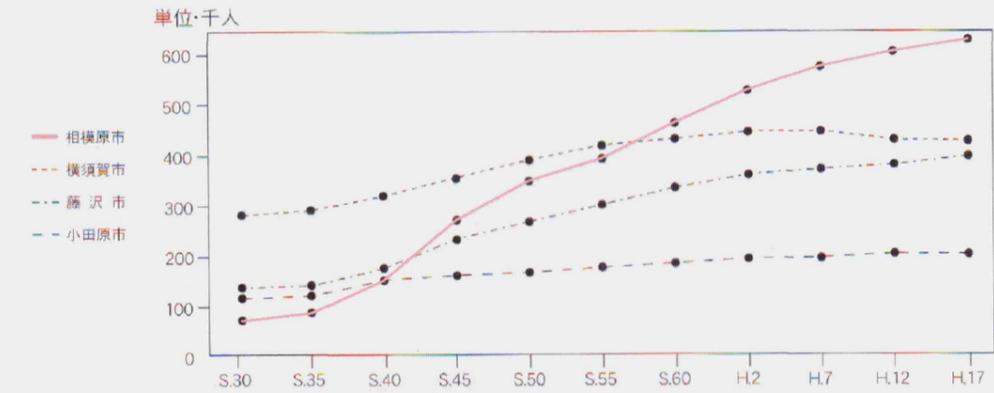
市制施行当時は8万人たらずだった相模原の人口は、2000(平成12)年には60万人を超え、県下では、横浜、川崎についで3番目、全国でも19番目(平成15年4月)に人口の多い都市になった。40年ほどで、人口が7倍以上と急増をとげた。

人口が著しく増加したのは、1960(昭和35)~70(昭和45)年代で、そのほとんどが社会増加によるものだった。この時期は、わが国の経済が高度成長をとげ、工業化が進むとともに、東京や大阪などの大都市圏が拡大されていったところだ。

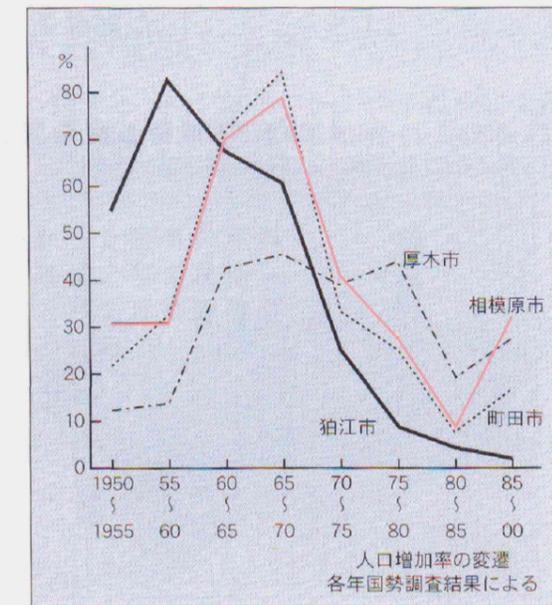
相模原市でも、1955(昭和30)年に工誘致条例が施行され、多くの会社や工場が市内に進出してきた。また、1958(昭和33)年には首都圏整備法の市街地開発区域の第1号指定を受け、それともなって、相模原にも都市化の波が押し寄せてきた。この時、職場と共に、あるいは宅地を求めて、県外や県内から多くの人々が、相模原に移り住んできた。

現在は、近隣の4つの町と合併したため人口は710,149人(平成17年国勢調査確定数を基礎とし推計)に達した。

さらに、政令指定都市を目指しマンションの計画が各地で行われており、さらに人口が増加すると予想される。



□表1 人口の移り変わり(市統計書・県勢要覧)



□表2 人口増加率の変遷

— 1 — 3 相模原市21世紀総合計画 ～新世紀さがみはらプラン～

〈相模原市の都市づくりの基本理念〉

わたくしたちのまち相模原は、相模川の雄大な流れ、相模野の面影を残す木もれびの森や横山丘陵の豊かなみどりに代表される自然、多くの先人達の英知と努力、そして市民の活力を財産として発展してきました。

こうした財産を大切に、市民一人ひとりが夢や生きがいを持ち、安心して生活できる地域社会の形成に努め、次世代に誇れるまちづくりを進めることは、現代に生きるわたしたちの責務です。わたくしたちは、住みよい風格のあるまちへの限りない発展を願い、市民の行動規範として制定された「相模原市民憲章」を基とし、『人間尊重』を基本理念としてまちづくりを進めます。

〈都市像〉

わたくしたちは、基本理念を基調に、次の都市像の実現に向けてまちづくりを進めます。

『輝きと愛があふれる人間都市 さがみはら』

〈基本目標〉

わたくしたちは、都市像である『輝きと愛があふれる人間都市 さがみはら』の達成のため、次の3つの基本目標によるまちづくりを進めます。

『学びあい あたたかさのある福祉文化都市』をめざして

『ゆとりある みどり豊かな環境共生都市』をめざして

『躍動し 魅力ある交流拠点都市』をめざして

『学びあい あたたかさのある福祉文化都市』をめざして

主な計画

- 安心して生活できる福祉社会の実現
- いきいきとした生涯学習社会の創造
- 多彩な市民文化の創造
- 個性豊かなコミュニティづくりの推進

『ゆとりある みどり豊かな環境共生都市』をめざして

主な計画

- 人と自然にやさしい地域社会の創造
- 水やみどりの保全と創造
- 安全に暮らせる都市の実現
- 基地全面返還の実現

『躍動し 魅力ある交流拠点都市』をめざして

主な計画

- 立地特性を生かした産業の振興
- 質の高い都市基盤の整備推進
- 利便性の高い公共交通網の確立
- 高度情報化への対応

私たちの相模原（平成20年度版）より

— 1 — 4 相模原の文化

相模原市には市民の力で、年々さかんになってきている行事もたくさんある。橋本の七夕まつり、市民桜まつりなどをはじめとする各種の行事がある。また、この他にも市民で活動する各種の文化団体が、美術展・音楽会・文芸展などの多くの行事を定着させている。2001(平成13)年からは、写真文化にスポットをあてた「総合写真祭フォトシティさがみはら」がはじまり、新たなさがみはら文化の創造と発信を行っている。

市民会館やグリーンホール相模大野・杜のホールはしもとなどでは、国内外の音楽家や劇団などが招かれて、レベルの高い公演が行われたり、市民の各種団体による発表会が活発に開かれている。

小・中学生の活動としては、毎年11月初旬に淵野辺公園や女子美術大学アートミュージアムを使って、「造形さがみ風っ子展」が開かれている。多くの作品が展示され、沢山の人が見学をする。



◇ fig.1 + fig.2 橋本七夕まつり



◇ fig.3 + fig.4 市民桜まつり



◇ fig.5 + fig.6 フォトシティさがみはら



◇ fig.7 + fig.8 造形さがみ風っ子展

— 1 — 5 相模原の文化施設

人口急増都市のため文化施設の少なかった相模原では、買い物先と同じように文化施設も他市に頼ることが多くなっていた。市民は音楽を聴いたり、映画や演劇を観るためには、横浜や東京方面へでかけなければならなかった。

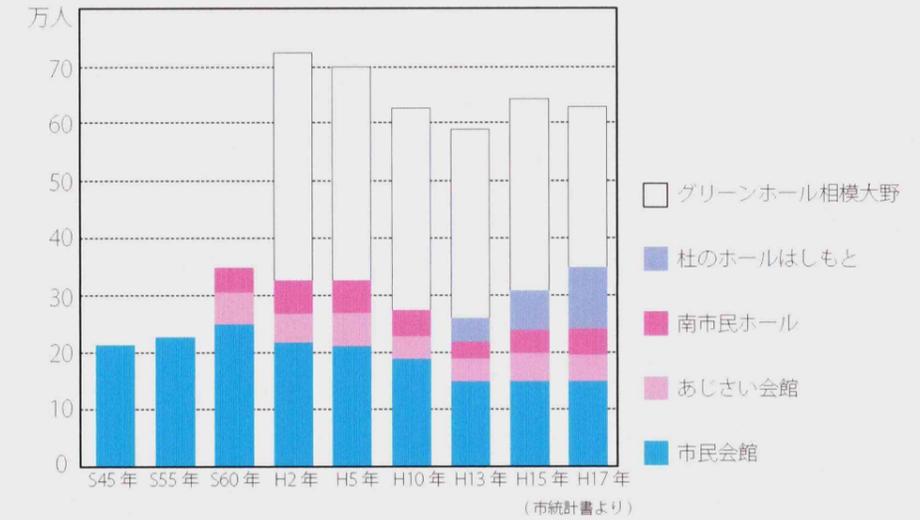
そこで市民の要望にこたえ、1965(昭和40)年に「相模原市民会館」がオープンし、映画や音楽・演劇などが催され、多くの市民に利用されてきた。

市民生活が多様化した現代では、いろいろな文化施設が要求されるようになってきた。そこで南市民ホールやあじさい会館ホールなど小ホールがつくられ、多数の市民が利用している。

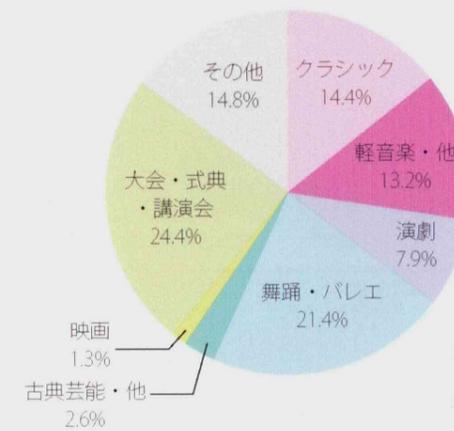
さらに1990(平成2)年1月には、大ホール・多目的ホール・図書館・南メディカルセンターを兼ね備えた「グリーンホール相模大野」がオープンし、文化施設の大きな拠点としてさまざまな活動をしている。

「市民会館」では、時代の変化とともに映画鑑賞会の利用が減り、学校行事や講演会などの大会・式典の催しが増えている。「グリーンホール相模大野」では、軽音楽やクラシックの催しが半分をこえ、市民会館とは違った特徴を示している。

また、2001(平成13)年9月には、橋本駅北口に「杜のホールはしもと」がオープンし、市民が音楽、演劇等の芸術文化を鑑賞したり、自ら芸術文化活動を実践する場として利用されている。

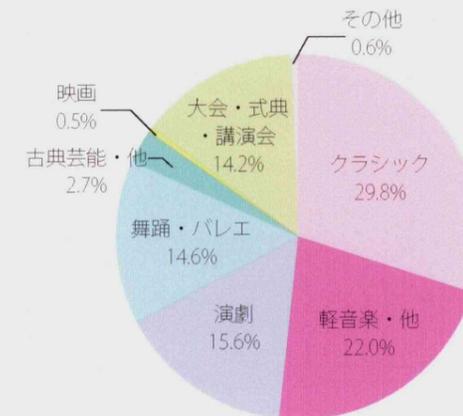


□表1 文化ホールの利用状況



「相模原市民会館利用状況年報」より

○図 市民会館ホールの利用状況(平成18年度)



「相模原市文化会館利用状況年報」より

○図 グリーンホール相模大野大ホールの利用状況(平成18年度)

__ 2 __ 1 橋本について

橋本は相模原市中心部（旧市域北部）にある相模原市の都市核に認定された地区である。神奈川県北の入り口と位置づけられ、県や市、民間が主体となった再開発が進んでいる。

周辺には多摩美術大学、東京家政学院大学、東京造形大学、法政大学多摩キャンパスなど、大学が多いこともあり学生の街としても賑わっている。

橋本は、行政の中心としてだけでなく、周辺地域からのバス路線が橋本駅に集まったこともあって、神奈川県北部の交通の結節点として発展した。特に旧津久井郡南部の城山町（現、相模原市城山町）や津久井町（現、相模原市津久井町）は、バス交通を介して橋本と強く結びついている。また、相模原市旧市域北西部の大沢地区や田名地区、上溝地区、さらには隣接する東京都町田市北西部（堺・小山地区）や八王子市の一部にもその影響は及ぶ。

1990年に京王電鉄相模原線が乗り入れ、東京23区、特に新宿に直結したことによって交通結節点としての重要性をさらに増した。リニア中央新幹線の駅を誘致しようという運動が相模原市を中心に行われていて、2008年5月31日の中日新聞によると候補駅に挙がっている。

1990年代末以降、駅北口の再開発や工場跡地などへの高層マンション建設によって商業や人口の集積が進みつつあり、相模原市旧市域北部の拠点として成長を続けている。



■ 図1 各駅の一日常乗車人数 (平成18年度)
※橋本駅は横浜線・相模線・京王線の合計

【中心市街地活性化に対する効果】 — 橋本駅周辺地区における中心市街地活性化事例 —

課題

橋本地区は、JR横浜線、相模線、京王相模原線の乗り入れによる鉄道3線が結節する交通の要衝であり、広域的な商業核として発展してきた地区であるが、都市基盤整備の遅れや集客施設の不足、適切な商業集積が図れていないなどから、近隣都市の大規模商業集積地や郊外のロードサイド店へ購買力が流出、商店数や年間販売額の減少、空き店舗の増加など、空洞化が深刻化。

目的

「ふれあいのターミナルはしもと」をテーマに広域ターミナル機能を生かした人と文化と情報のふれあい・交流拠点の形成を目指し、橋本駅周辺の商業地と隣接する橋本都市拠点地区の2地区を核とした約150ヘクタールを対象に基本計画を平成11年2月26日に策定、事業着手。



橋本駅北口周辺 (事業着手前)



橋本駅北口周辺 (完成後)

<中心市街地活性化を支援する補助事業>

- 橋本駅北口地区第一種市街地再開発事業
- まちづくり総合支援事業
- 橋本地区土地区画整理事業
- ・橋本駅北口地区 平成10年8月着工、平成12年10月完成
- ・橋本駅北口C地区 平成11年9月着工、平成13年7月完成
- ・再開発事業や高次都市施設（杜のホール）への補助
- ・平成9年11月～平成15年3月

効果

土地区画整理事業により都市基盤整備が行われ、良質な中高層住宅や緑豊かな公園等の配置、研究開発・業務地区での研究開発施設・オフィス等の集積が図られるとともに、橋本駅北口では、再開発事業により超高層のツインタワーをはじめ、商業施設、公共施設等の備わった新しいまちが出現し、道路・駅前広場等の整備による総合的なまちづくりが行われた。

この結果、魅力ある中心市街地が形成され、特に商業地の休日通行量が約2割増加するなど、次世代に誇れる活気とにぎわいのある町へと変貌。

出典：関東地方整備局

〈都市再生特別措置法の適用〉

□整備の目標

首都近郊の内陸工業都市の核として発達してきた橋本地区において、JR 横浜線・相模線、京王相模原線の3線の交通結節点としての立地特性を活かし、敷地の共同化や駅に近接する大規模工事跡地の土地利用転換等により、多様な都市機能をもった複合市街地を形成

□都市開発事業を通じて増進すべき都市機能に関する事項

橋本地区については敷地の共同化により、また、大山町地区については大規模工事跡の土地利用転換により、商業・居住・周辺都市と連携を視野に入れた交流等の都市機能を拡充・強化

□公共施設その他の公益的施設の整備に関する基本的事項

- 地域の防災機能の強化に資する公園の整備
- 橋本地区内の交通の円滑化に資する都市計画道路橋本新町通り線及び都市計画道路橋本駅北口線の拡幅整備
- 国道16号から大山町地区へのアクセスの強化を検討
- 地域内の回遊性を確保する歩行者ネットワークと公園へのアクセスに配慮した歩行者導線を形成

1、地域の概要

- 相模原市は、東京に隣接し、昭和40年代以降には首都圏のベッドタウンとして人口が急増し、急速に都市化が進展(人口約70万人)。
- 指定地域は、橋本駅北口周辺の地区から駅東側の大山町地区の大規模工場までを含んだ地域で、近年の産業構造の転換などを背景として、大規模工場の移転や商業施設の撤退などによる遊休地の活用や中心市街地の活性化が課題となっており、都市の再生に向けた取組みが必要となっている地域。
- JR 横浜線・相模線、京王相模原線の3線の交通結節点としての立地特性を活かし、敷地の共同化や大規模工場跡地の土地利用転換等により、多様な都市機能をもった複合市街地の形成を図る。

2、主要プロジェクト

①プロジェクト名(地図上の位置①) 橋本6丁目D地区優良建築物等整備事業

所在地/面積	相模原市橋本6丁目232-1外 / 約0.49ha
用途地域	商業地域
主用途	共同住宅、商業・業務施設、公共駐輪場
延床面積	約31,700㎡
事業者	橋本6丁目D地区優良建築物建設組合
着工～竣工	平成17年6月～平成19年10月



②プロジェクト名(地図上の位置②) 日本金属工業相模原事業所跡地開発事業

所在地/面積	相模原市大山町403-3外 / 約12.8ha
用途地域	工業専用地域
主用途	西-1 商業・文化施設、西-2 集合住宅
延床面積	西-1 約145,000㎡、西-2 約81,910㎡
事業者	日本金属工業(株)・(株)イトーヨーカ堂 三菱地所(株)・藤和不動産(株)
着工～竣工	平成19年4月～平成22年12月(予定)

③プロジェクト名(地図上の位置③) 橋本6丁目24番地区優良建築物等整備事業

所在地/面積	相模原市橋本6丁目24番外 約0.21ha
用途地域	商業地域
主用途	共同住宅、商業施設
延床面積	約11,000㎡
事業者	橋本6丁目19・24番地区共同ビル建設組合
着工～竣工	平成20年11月～平成22年6月(予定)



— 2 — 3 橋本七夕まつり

昭和27年に始まり、50年以上の歴史を持つ橋本七夕まつりは相模原市の代表的な夏の祭りの相模原納涼花火大会と上溝の夏祭りとは並ぶ相模原市の夏の3大まつりと言われ、市民の皆さんに親しまれてきた。商店街を活気付けようとしての一環で、創められた。

JR橋本駅北口の周辺を中心に、地元商店街の皆さんが制作した約250本の華やかな竹飾りが林立する。すべてが手作りで商店街の人が発想から完成まで一ヶ月もかけて作りあげる。

駅前の商店街通りは歩行者天国となり、昼間から開放的な気分にしてくれる。昭和57年には、「かながわのまつり50選」の一つに選ばれている。

橋本七夕まつりは、現在は商店街はもちろんの事、地域ぐるみの行事にまでなった。露店はもちろん多彩な催し物が繰り広げられる。少年鼓笛隊パレード、願い事竹飾り、スタンプラリー、バザー、ダンス、中学校の吹奏楽の演奏、相模原市消防ラッパ隊、大道芸、歌謡ショーなど様々なイベントが盛り沢山である。



○図6 橋本七夕まつマップ



◇fig.9 昭和30年代



◇fig.10 昭和50年代



◇fig.11 現在

第3章

包容する建築

— 1 包容する空間

一般的に文化施設といえば、広々とした空間を想像する。私はそれを否定する訳ではないが、この橋本に計画する提案には人々を包容してくれる小さな空間がある建築にしたいと考える。それは、相模原市の人口がこれから増加していき、外へ出れば商業ビルか高層マンションが建ち並ぶような町になってしまうのならば、地域の人々は自分たちの家にしか居場所がないのではと考えるからである。

包容する空間をつくり地域の人々への第2の居場所をつくりたい。包容する空間は、天井高が家と同じくらいであり、曲面の壁で包み込んでいる。

家には、曖昧な境界があると考える。家には家具やものが溢れている。溢れている家ほど壁を意識する機会が減る。そして建物自体の形ではなく家具やものの置き方で人の行動範囲が決まる。

そのような曖昧な境界をつくれれば家に近い心地よさが生まれるのではないが。

直線で造るよりも曲線の方が優位だと考え四角と四角が噛み合う時に小さな空間をつくる角の部分に丸みをつけた。

— 2 — アートセンター

橋本駅周辺には多くの大学があり、学生の賑わいも目に入る。特に多摩美術大学の学生を多く見かけるが彼らの活動を橋本駅周辺で見ることはなかなかできない。橋本駅周辺には1つもギャラリーがないのである。音楽には力を入れ始めている橋本ではあるが、美術に関してはほとんど至っていない。

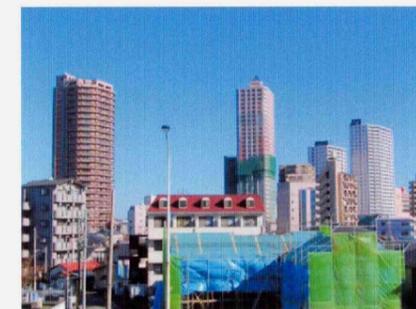
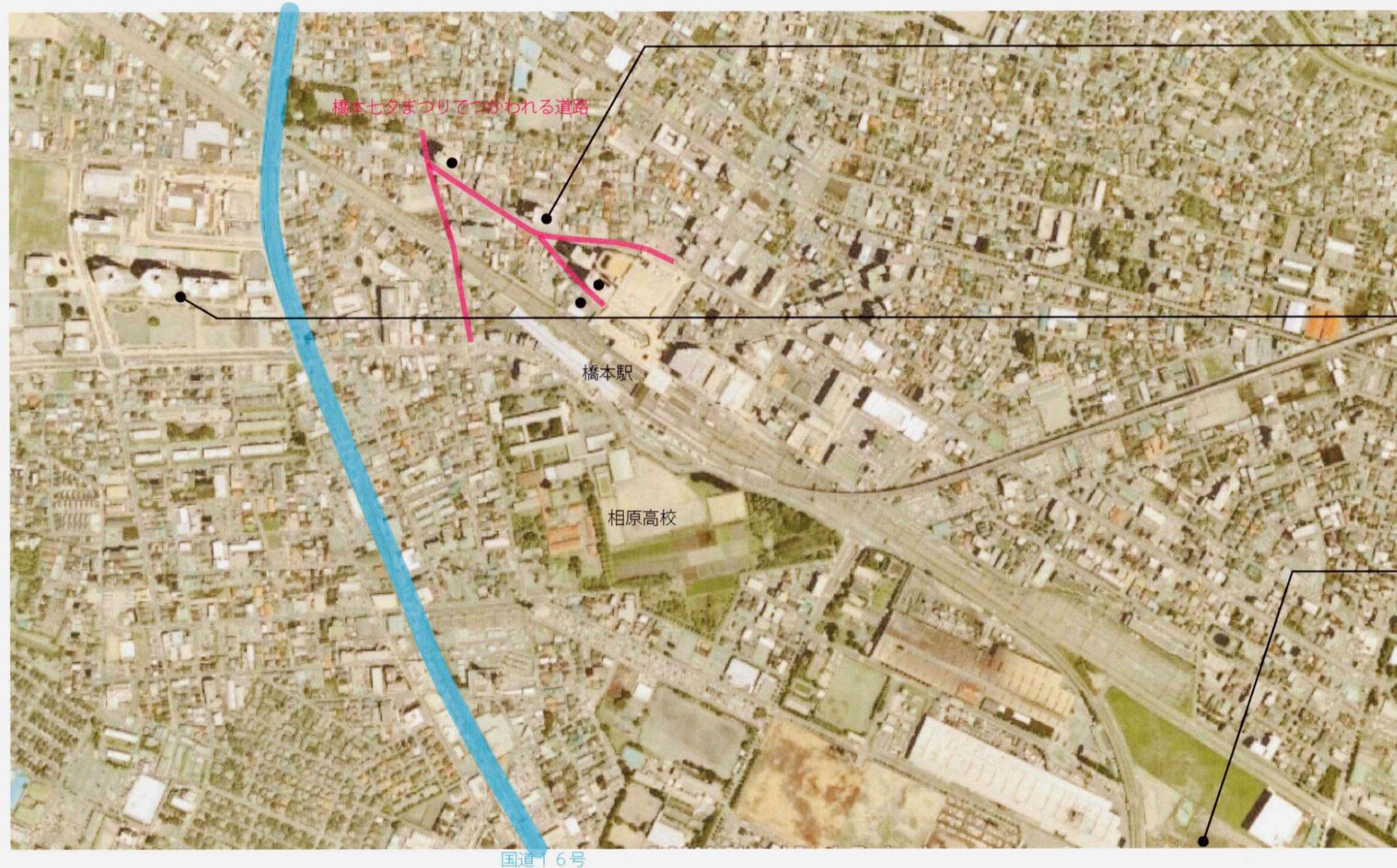
美術館ではなくギャラリーを提案するのは、ギャラリーのほうが美術館に比べて行きやすく、作品との距離感が近いからである。学生作品と地域の人々、地域の人々の作品と学生とがお互いに関わり合えるようなギャラリーが必要だと考える。

そして橋本図書館には音楽関係や産業関係に関する本は充実しているが美術関係は充実しているとはいえない。橋本は学生が多いこともあり、橋本図書館はいつもワークスペースは満席になっている。アートライブラリーとワークスペースがあることで、より文化活動のある地域になるのではないだろうか。

第 4 章

修士設計

__1 橋本



__2 敷地概要



敷地北側



敷地の現状



敷地南東にある駐車場



相原高校



橋本駅南口



敷地北東のコインパーキング

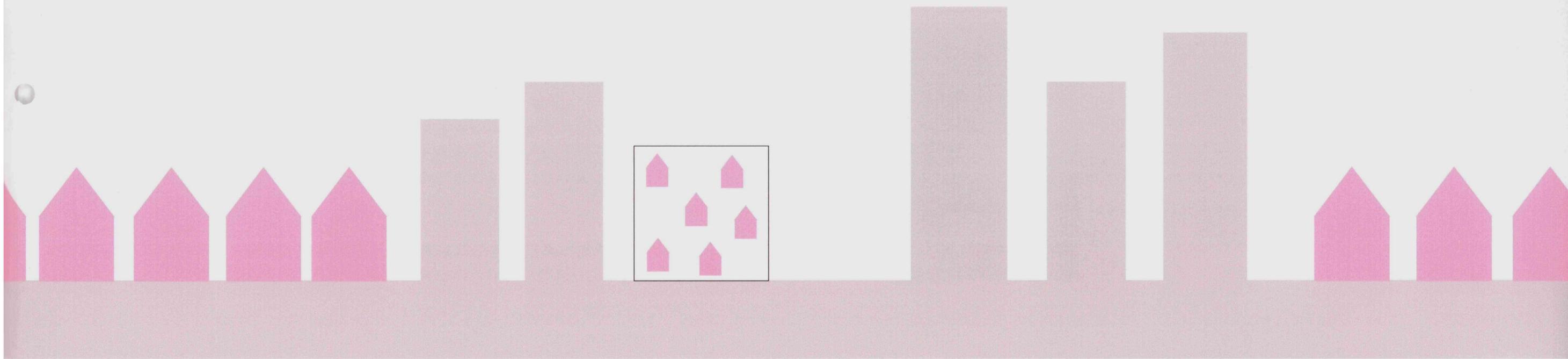


敷地東側

敷地概要

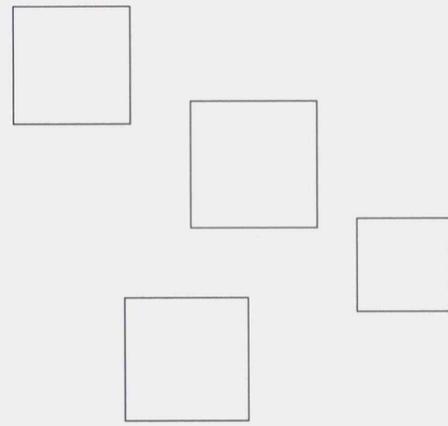
敷地：神奈川県相模原市
敷地面積：863.71㎡
用途地域：近隣商業地域 準防火地域
建ぺい率：80%
容積率：300%

— 3 — イメージ

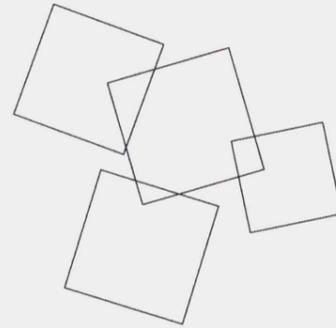


__ 4 コンセプト

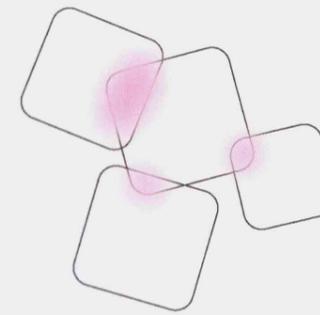
噛み合わせた角の丸い四角でできる包容空間



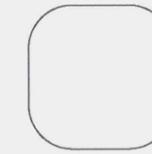
機能を割り当てる



噛ませる



包容する空間



ギャラリーには垂直の壁が必要だと考える。

しかし、曲面の壁であることで、

- ①人を誘導する
- ②人を留める
- ③光がやわらかく反射する

そして、噛み合う時に

- ④無駄なスペースを減少させる
- ⑤主な機能への影響を少なくさせる

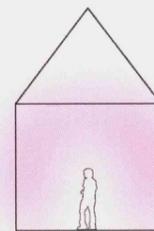
噛み合うことで大きなスペースから小さなスペースが生まれる。その小さなスペースは訪れた人を包み込んでくれるスペースになる。包容する空間は天井高が低い。それは、家にいるような感覚になるよう配慮したためである。

さらに、家に近い心地よさをつくるために、包み込んでいる。

家には、曖昧な境界があると考え。家には家具やものが溢れている。溢れている家ほど壁を意識する機会が減る。

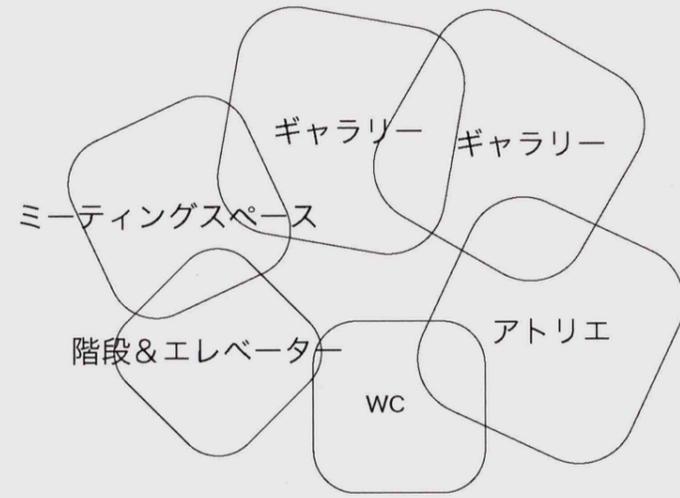
そして建物自体の形ではなく家具やものの置き方で人の行動範囲が決まる。そのような曖昧な境界をつくれれば家に近い心地よさが生まれるのではないか。包容する空間をつくり地域の人々への第2の居場所をつくりたい。

直線で造るよりも曲線の方が優位だと考え四角と四角が噛み合う時に小さな空間をつくる角の部分に丸みをつけた。

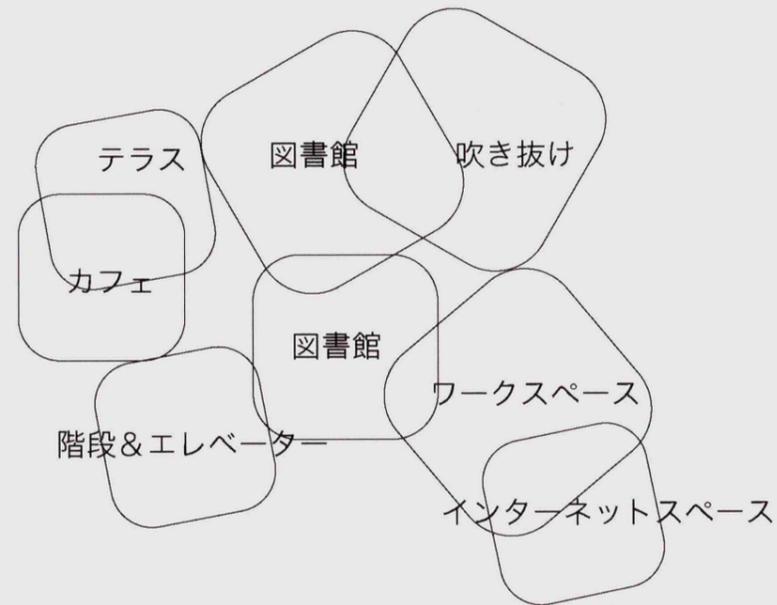


天井の低い包まれた空間ができることで、上の階に影響を与え、その部分が光や視線を通す場所となる。

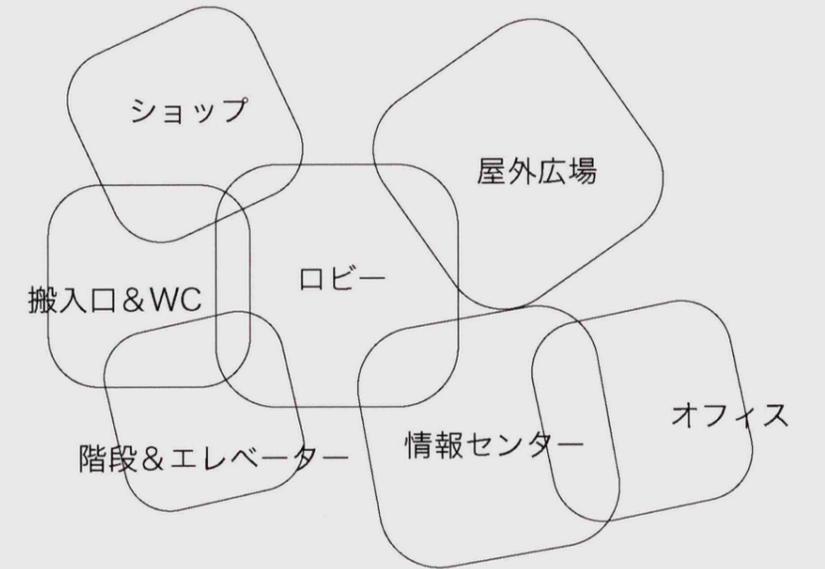
5 プログラム



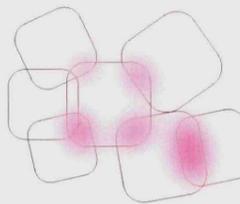
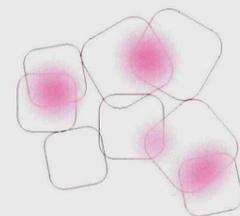
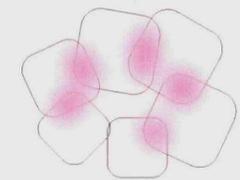
1F



2F

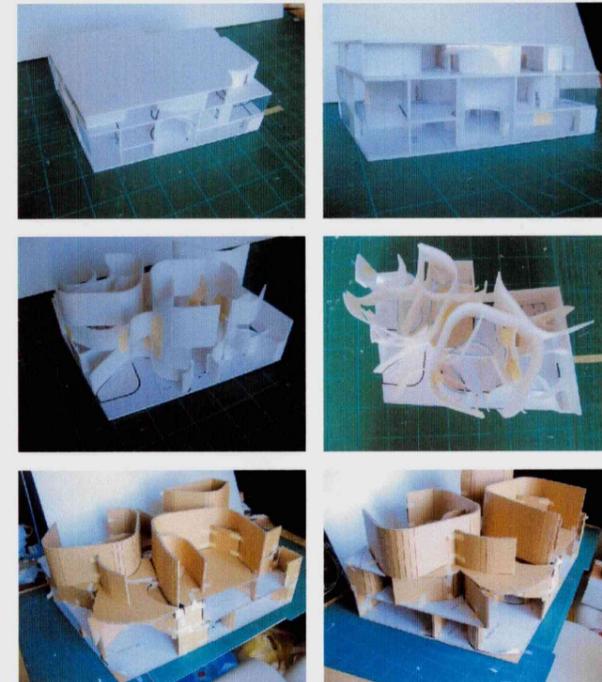


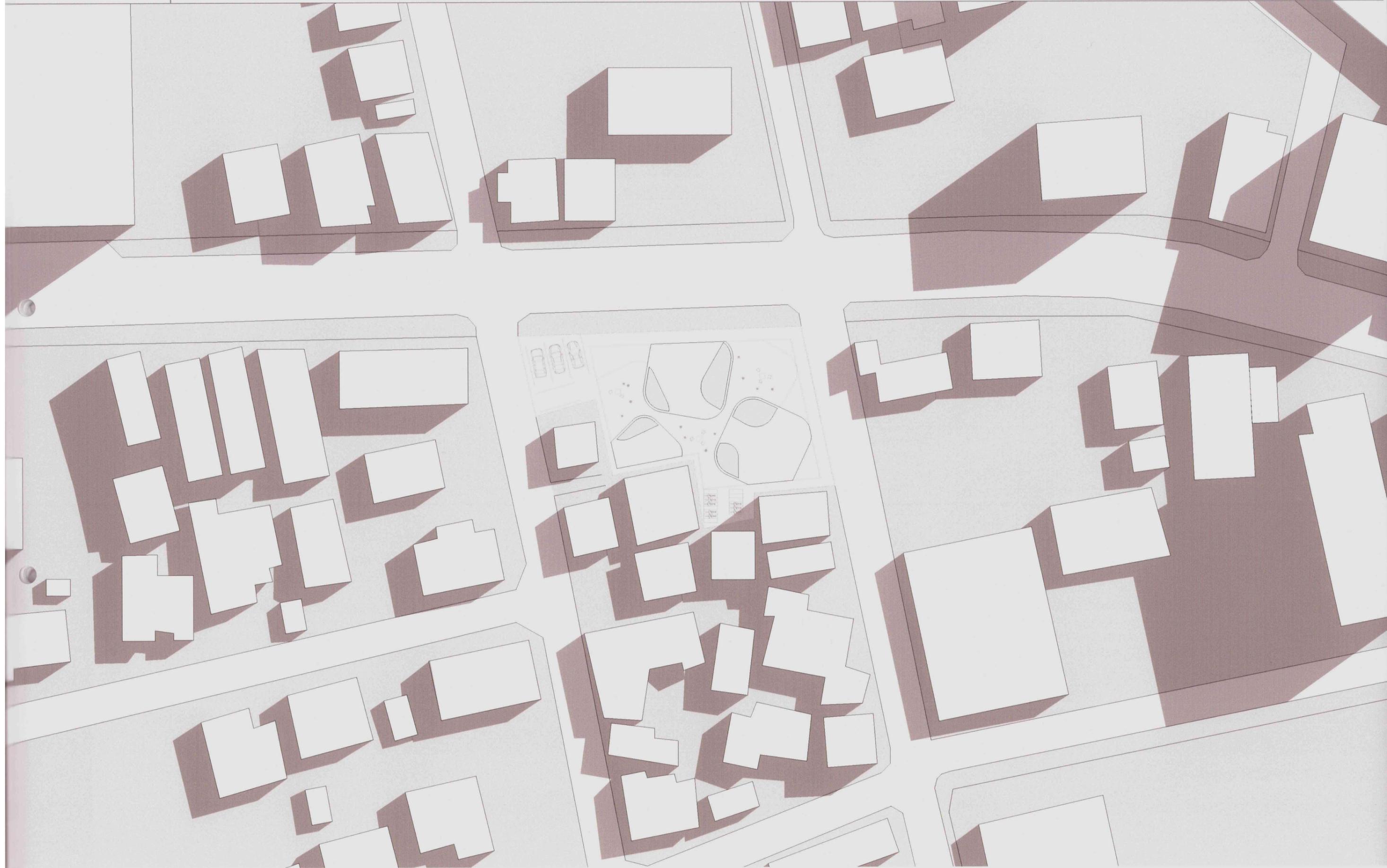
3F



噛み合っている四角は上下階で異なる噛み合い方になっている。
噛み合い方が異なることで、フォアサードに変化が生まれる。

スタディ

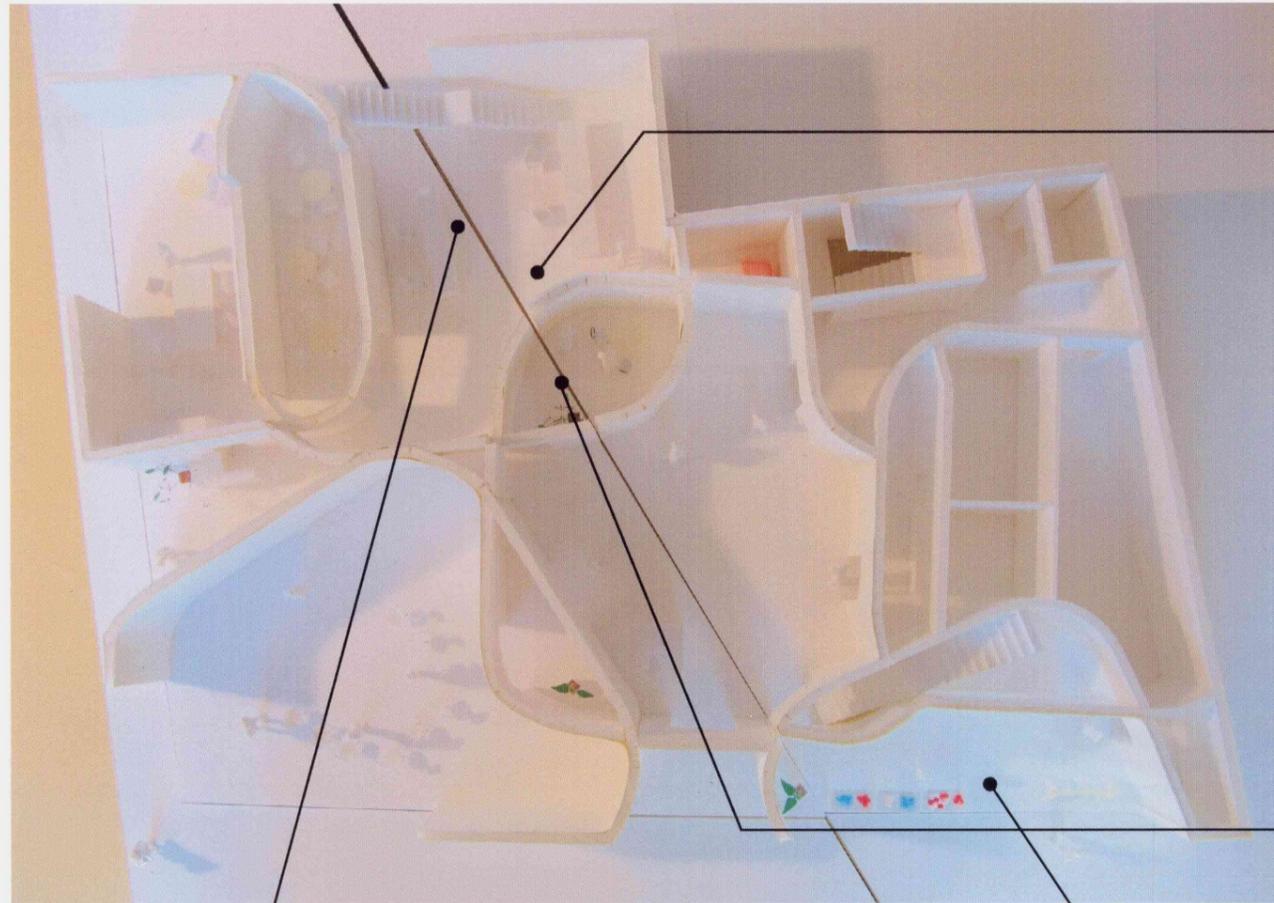




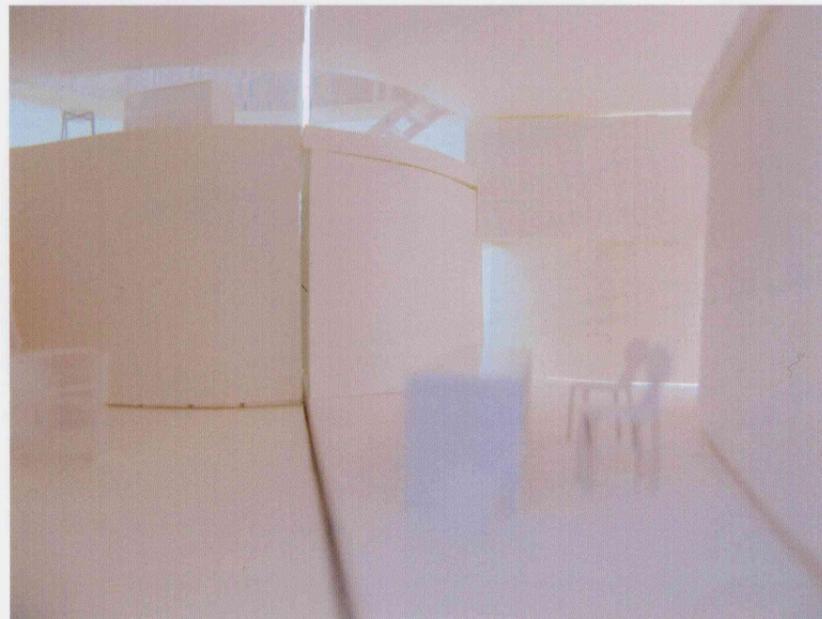








1Fからライブラリーを望む



情報センター



ショップ



1-2F断面 包容する空間

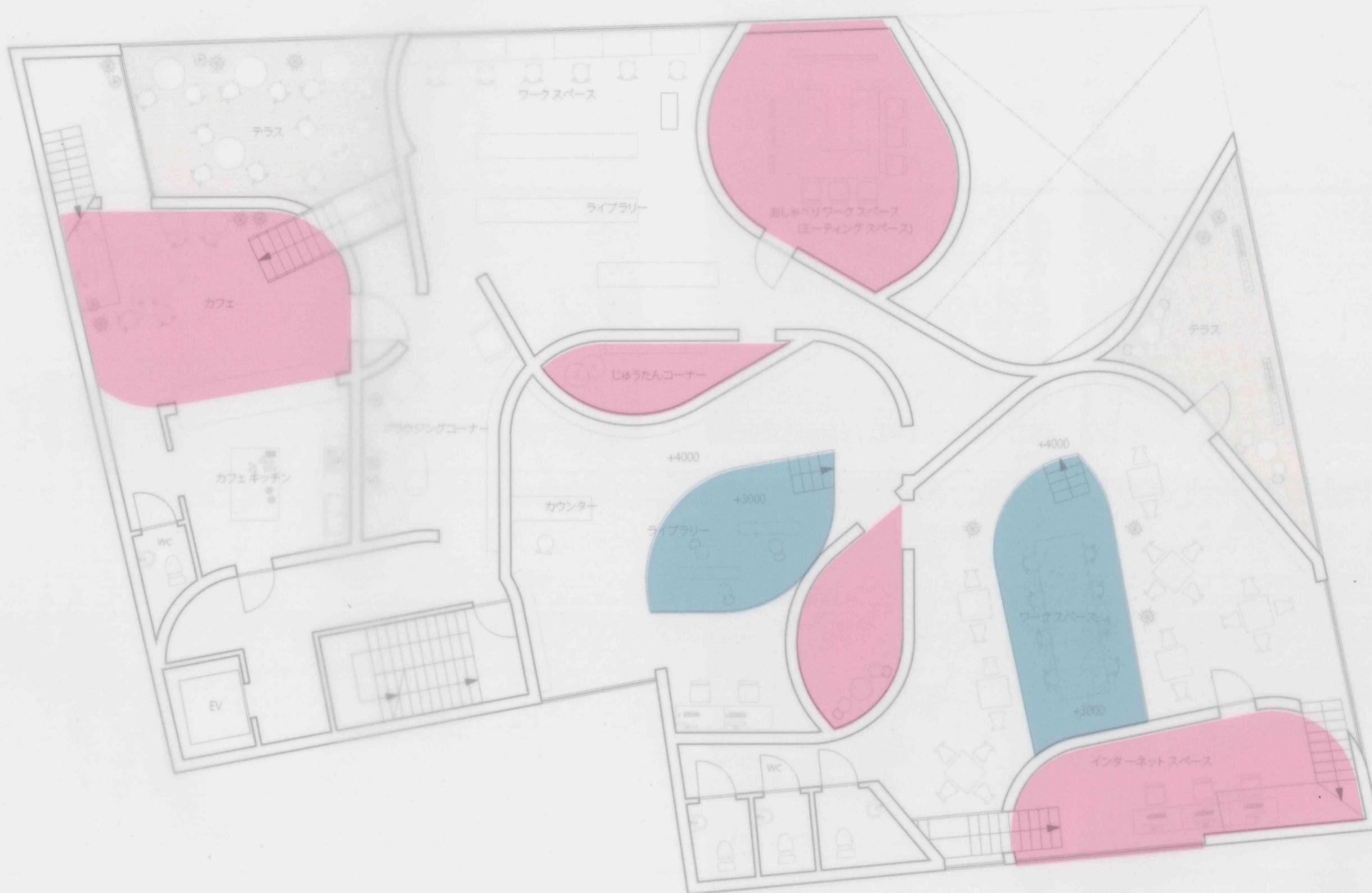




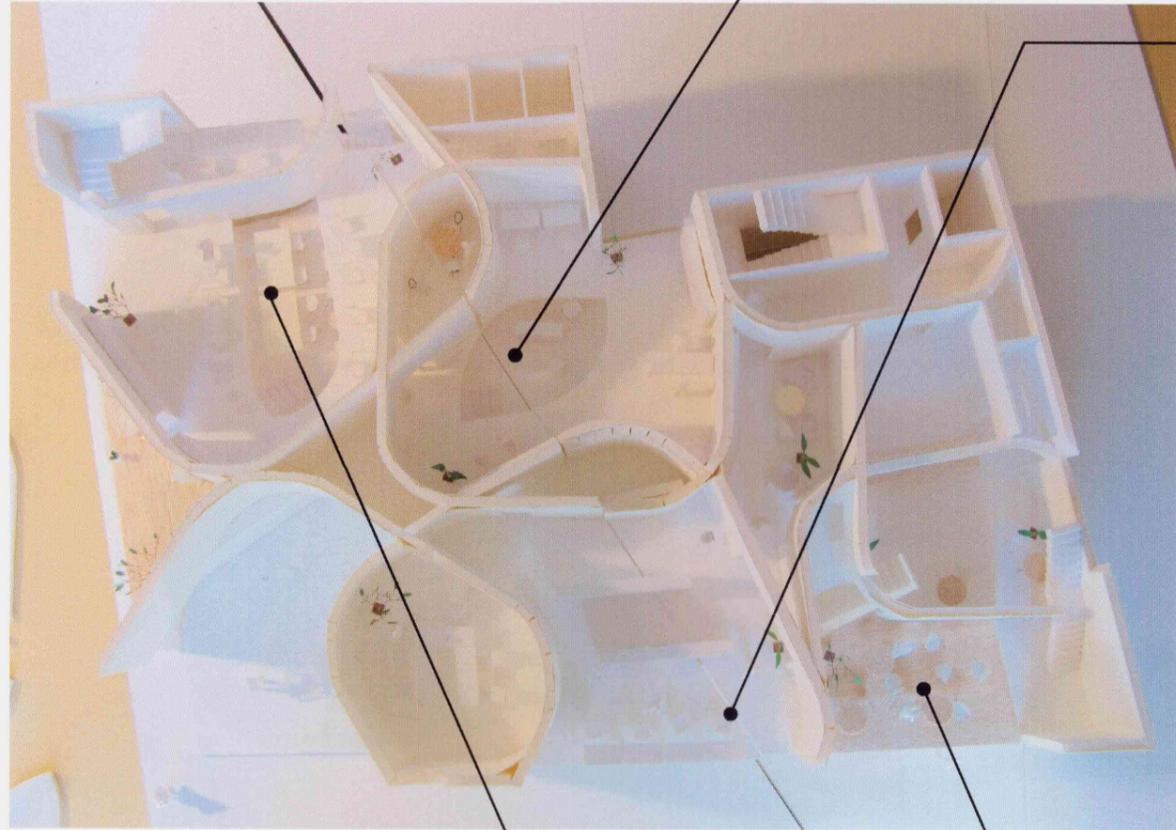
包容する空間に影響を受ける場所



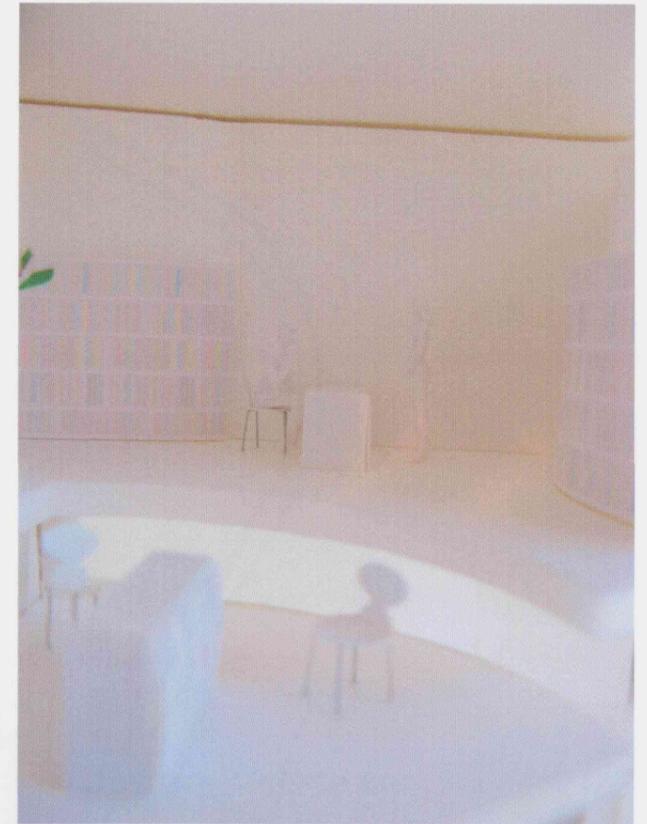
2F PLAN
SCALE: 1/100



2F PLAN
SCALE 1/100
包容する空間 包容する空間 包容する空間



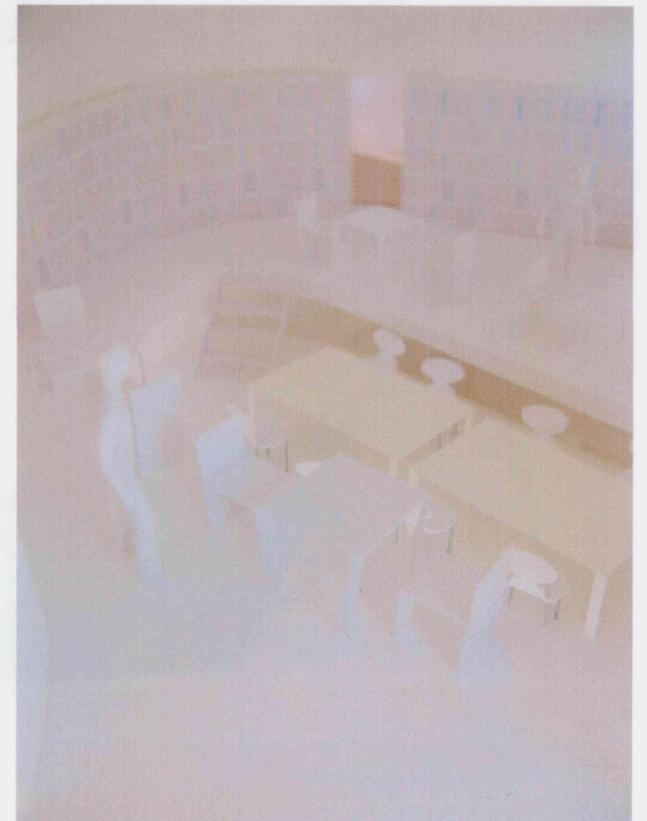
南側ライブラリー



北側ライブラリー



テラス

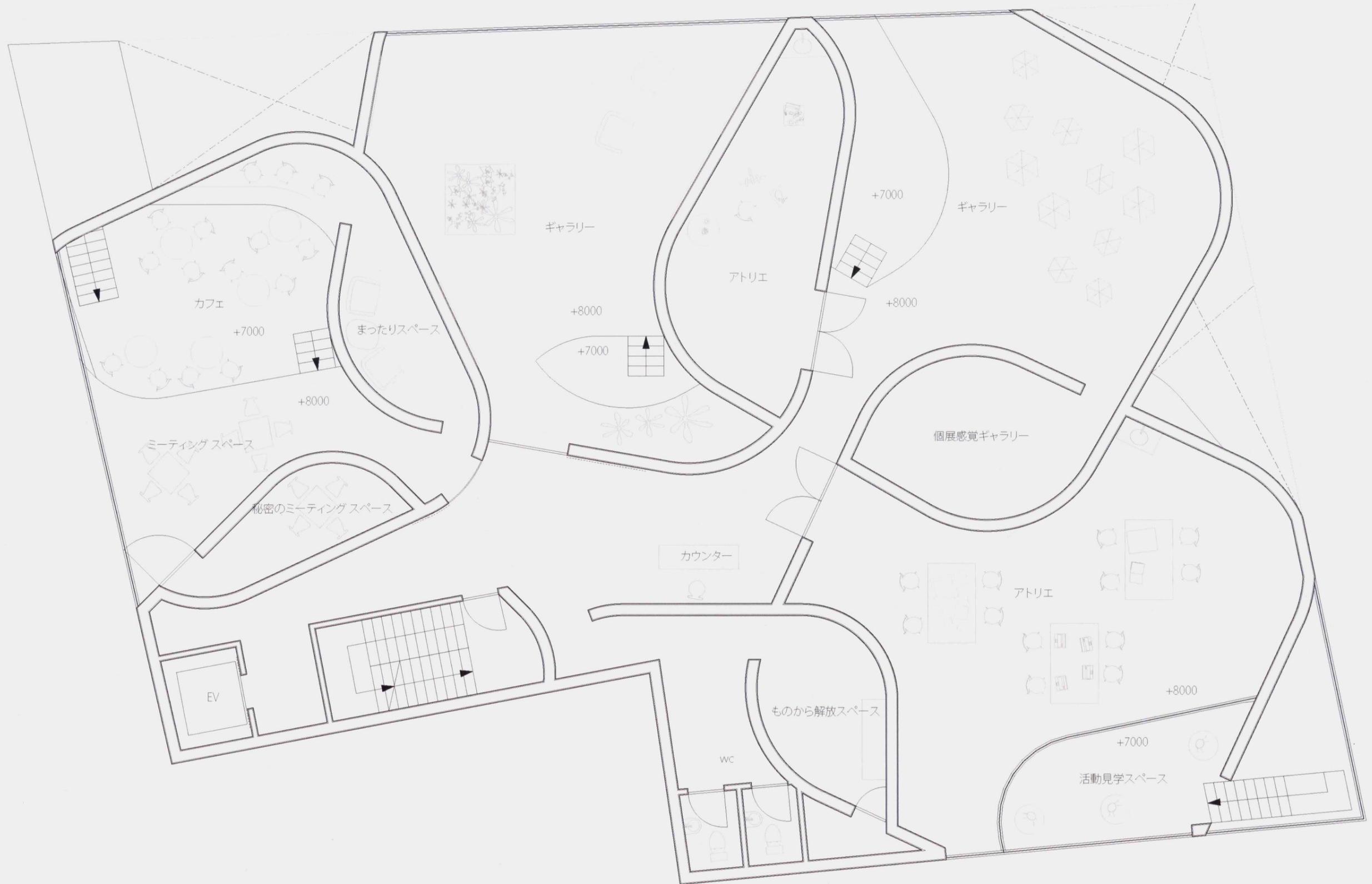


ワークスペース





包容する空間に影響を受ける場所



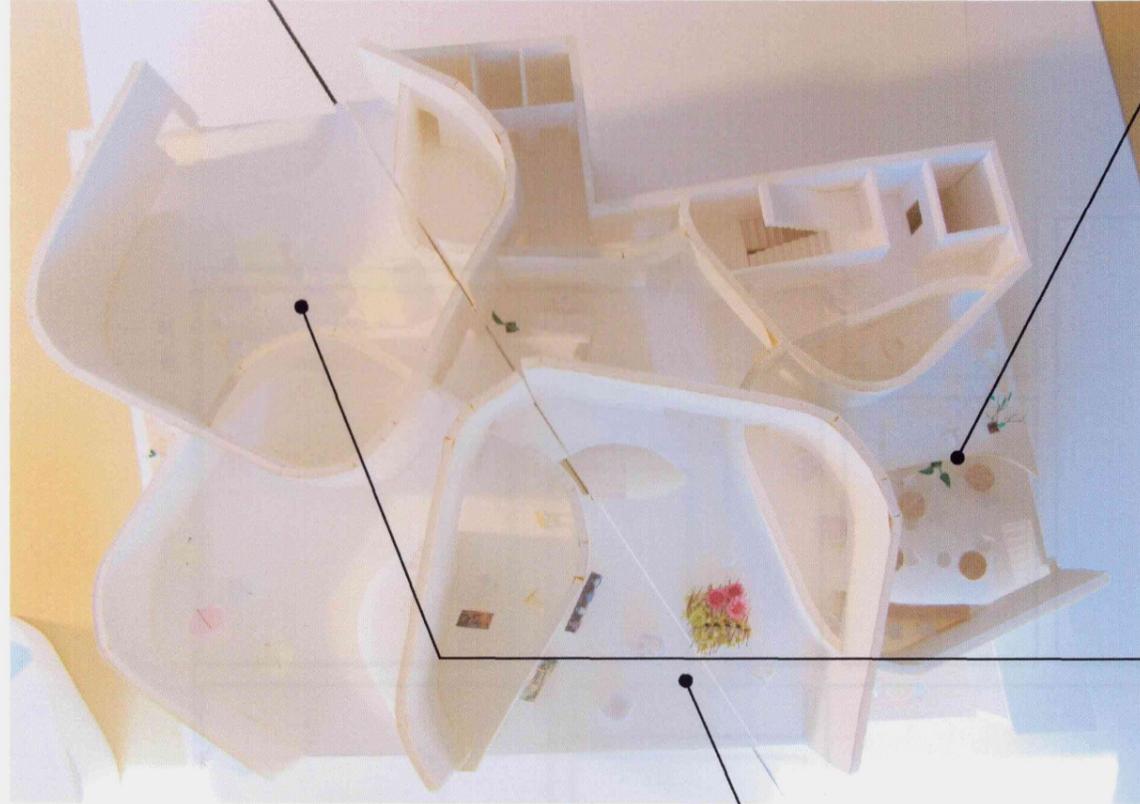
3F PLAN
SCALE: 1/100



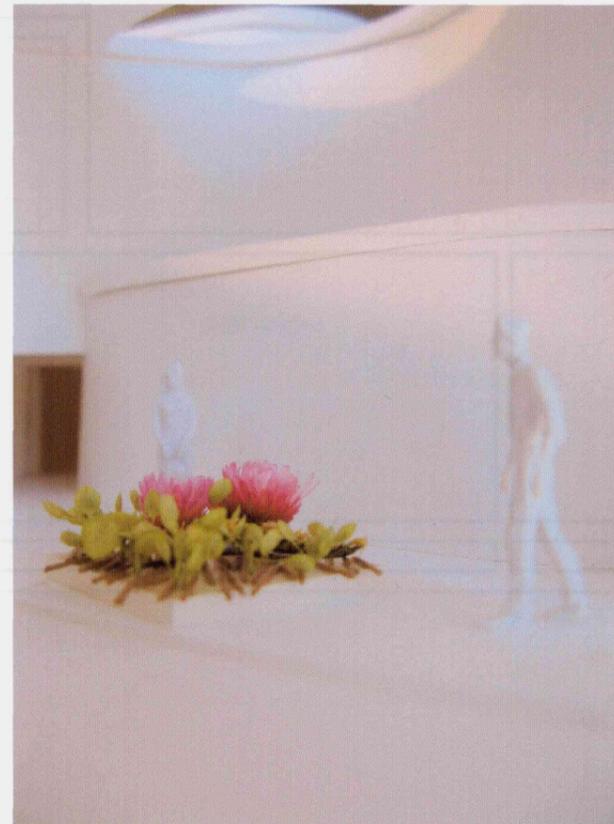
3F PLAN

SCALE: 1/100

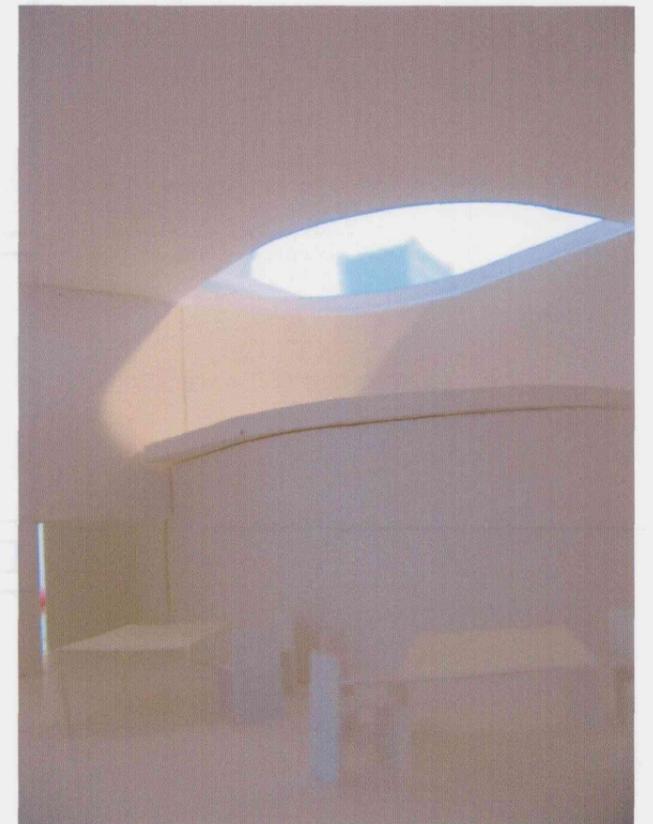
包容する空間 包容する空間 開ける場所



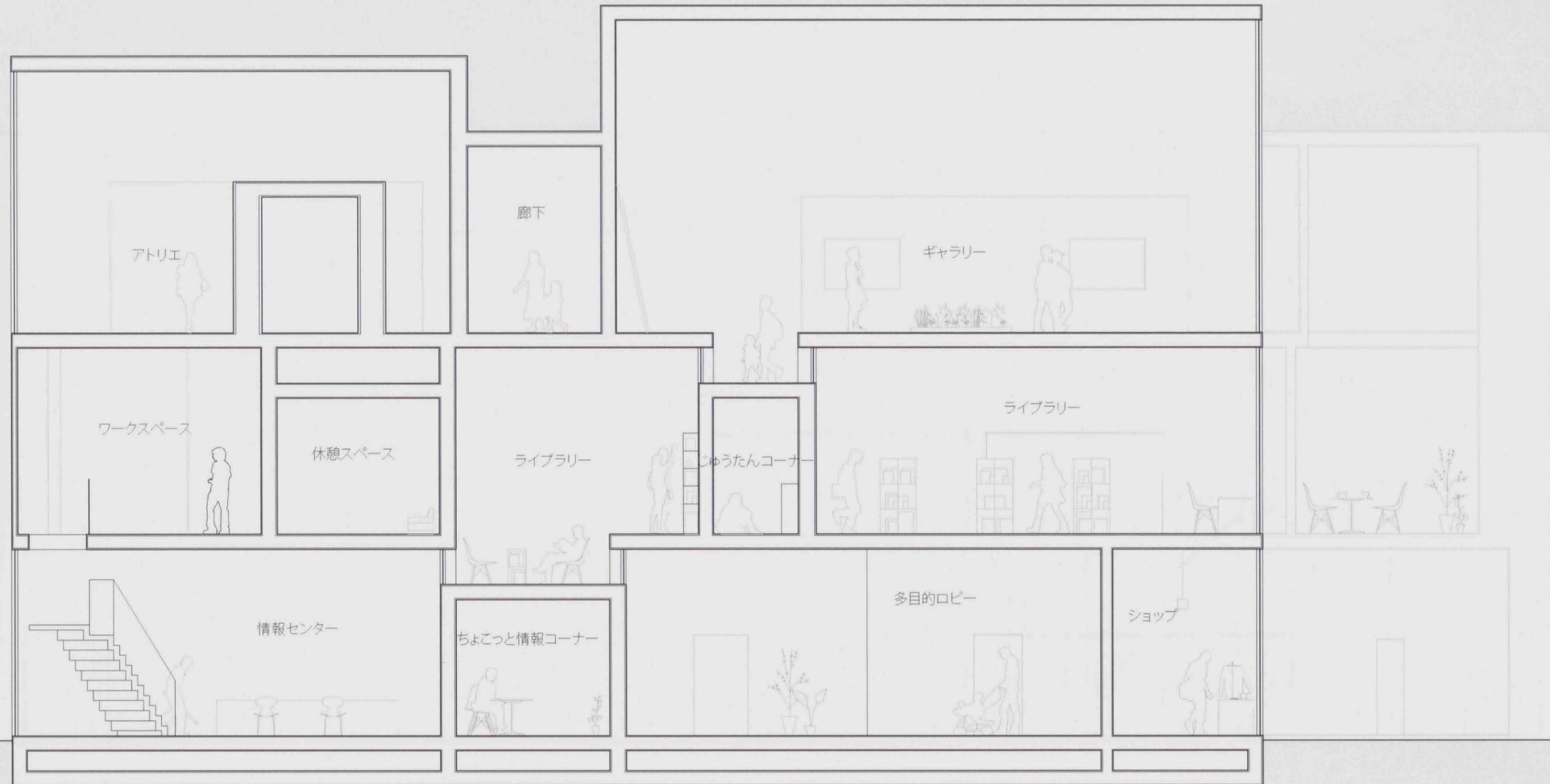
カフェとミーティングスペース



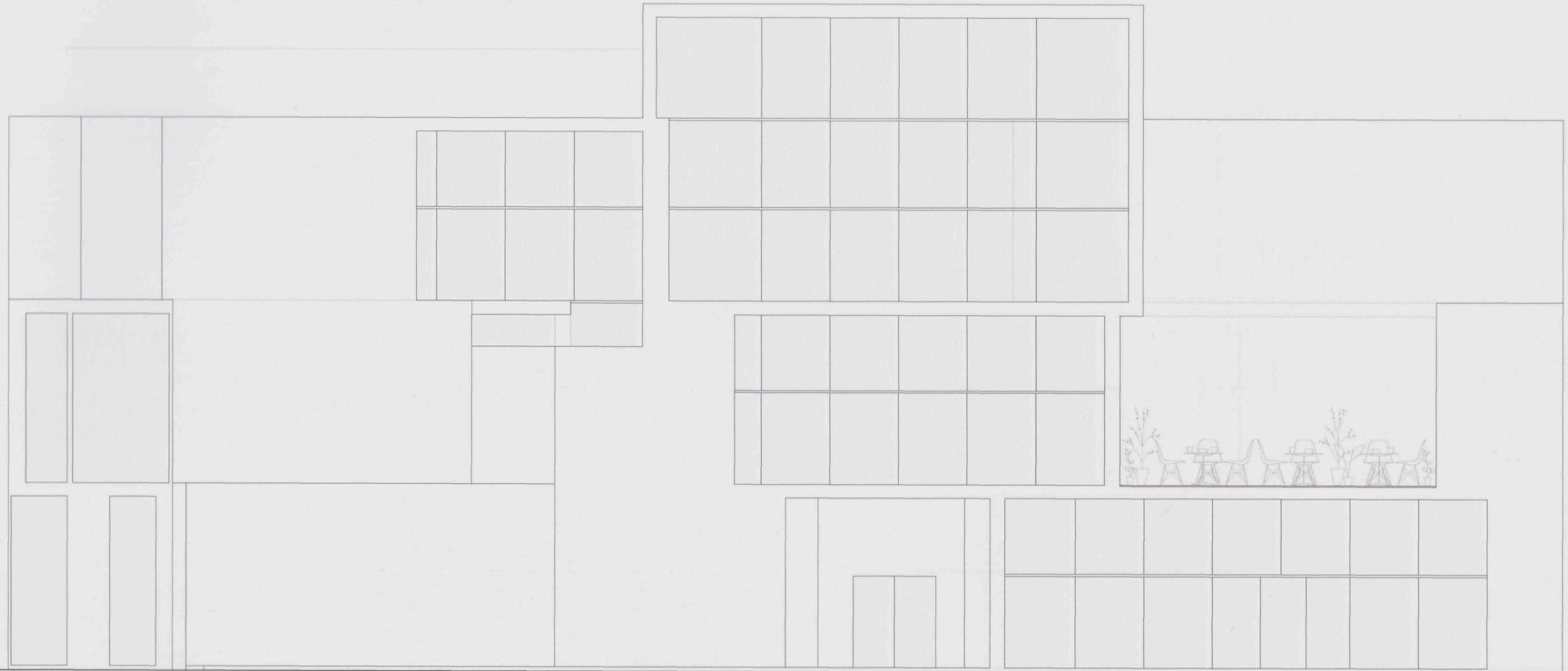
ギャラリー



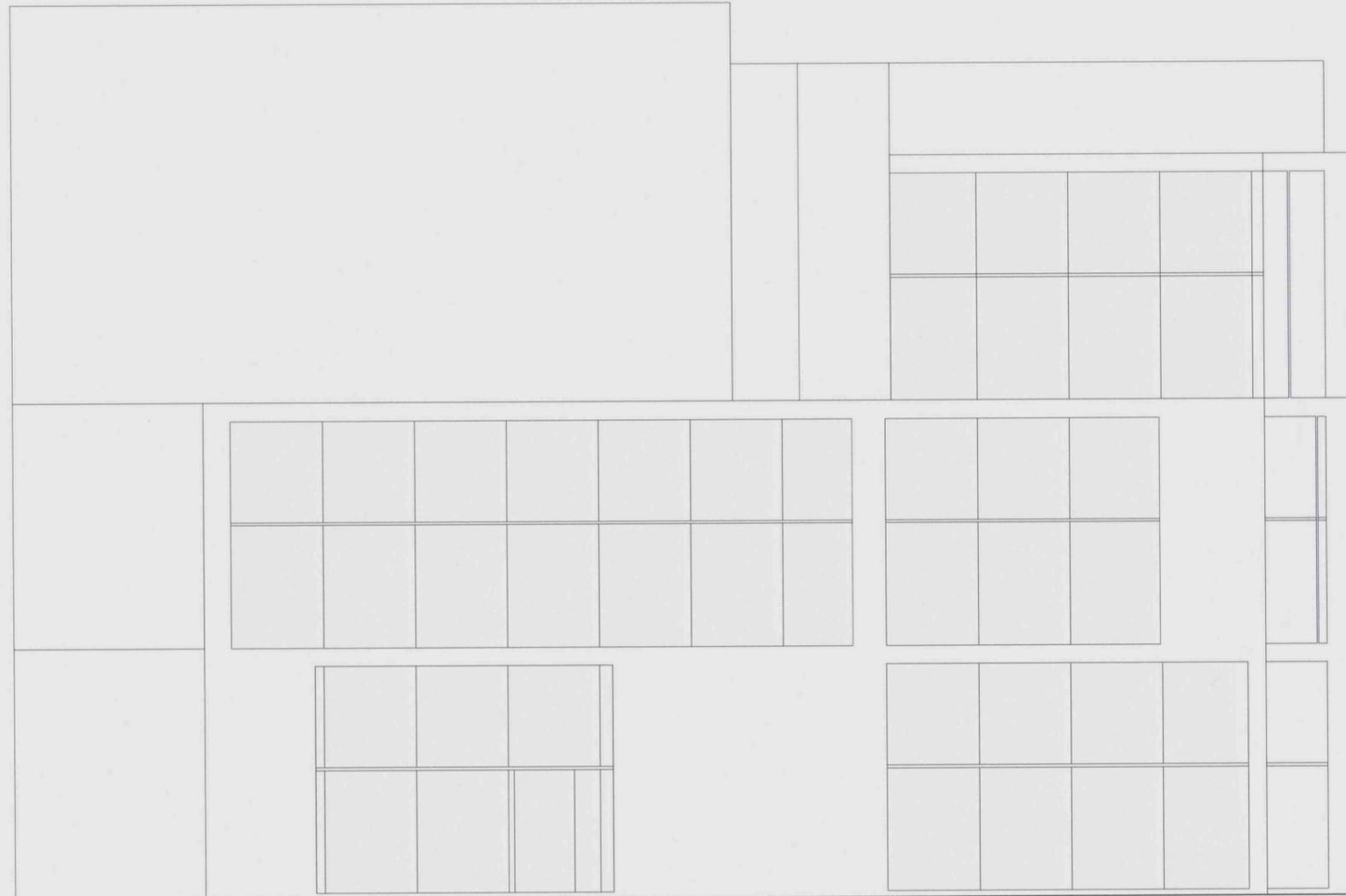
アトリエ



SECTION
SCALE: 1/100



North Elevation
SCALE: 1/100



East Elevation
SCALE: 1/100



参考文献・参考資料

「私たちの相模原 ー平成20年度版ー」
相模原市立総合学習センター 相模原市教育委員会 平成20年

相模原市 www.city.sagamihara.kanagawa.jp/

謝辞

修士設計に際して、数多くのかたがたのあたたかいご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

根気よく指導をしていただいた渡辺先生、並びに、諸先生方に感謝いたします。

一緒に頑張ってきたM2の皆、ありがとう。

一緒に作業をしてくれた蟻川、そして蟻川のお手伝いさん、ありがとう。

忙しい時期にもかかわらず手伝ってくれた、アンディ、たまちゃん、宇津木君、濱ちゃん、即日設計当日にもかかわらず徹夜で手伝ってくれたジョージ、プレゼンや作業についてアドバイスをしていたいただいた金子さん、最後の最後まで笑顔で手伝ってくれたのりピー、本当に感謝しています。

卒業できるか、体は大丈夫か心配してくれた家族にも…

この設計を通して、沢山の人の支えられ、まだまだ力不足の自分に気づき、強い意志を持つことができました。
ありがとうございました。